

Title	1990年代における石油元売企業の投資戦略 - G社についての事例研究 -
Sub Title	
Author	佐々木英明(Sasaki, Hideaki) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第844号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0844

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	佐々木 英明 (ゼネラル石油株式会社)	主査 伏見多美雄 副査 柴田 典男 柳原 一夫
所属	伏見多美雄 研究室	

1990年代における石油元売企業の投資戦略 - G社についての事例研究 -

石油元売G社をとりまく経営環境は、1990年代に大きく変化するものと考えられている。政府規制により企業間競争が著しく制約された従来の経営環境においては、単位当たりコストの削減と、投下資本効率の追求が経営管理上の主たる目標であったため、DCF法による1目標の最大化をねらいとする意思決定が行われてきた。しかし、1990年代になると規制緩和により競争手段の多様化が図られる一方、収益構造も変化すると予見されている。このような環境においては、複合的な経営目標のバランス良い達成をはかりながら投資の有効性を評価し、意思決定をすることが要請されている。これに対し、本研究では以下のように対応している。

- (1) 企業環境に応じた幾つかの戦略シナリオを分析すること。
- (2) 各種戦略シナリオをとった場合に、経営者が関心をもつ諸目標の達成度を見通すためのモデル化。
- (3) そのための手段として、財務的諸目標への影響度を把握し易いようなシミュレーションモデルを構築する。
- (4) シミュレーションの結果を合理的意思決定に結びつけるため、目標計画法により代替案を評価し、WHAT-IF 分析を添えて、経営者の意思決定をサポートするような工夫をする。

尚、複合的な諸目標の選定にあたっては、業界内の競争ポジションからの視点を強く反映させることで、従来の選定根拠の薄い目標を排除することができた。また、WHAT-IF 分析に関しても、選定される目標の幾つかについて「致命的レベル」を設定することで環境の悪化に対して脆弱な戦略を排除するという観点を加えることができた。